

誰もが、特別な物語を生きている

映画作家 栗山宗大
ものがたり法人FireWorks

1

前半

- ・ 小さな井戸の話
 - ・ 市民参加型映画プロジェクト
 - ・ 関連する映画WSなどの事例
- 6本の映像作品上映 + お話

後半

- ・ 4名の地域づくり実践者との対話
- Zoom映像上映 + 講話

1. 小田圭介氏：社会教育に求められる日常生
2. 羽田ふみえ氏：地域共生社会の担い手が語る公民館
3. 山口覚氏：対話が醸す、地域の信頼
4. 田中典子氏：公民館職員の働く意識

2

ともに生きる、
小さな社会をつくるために
なにが必要なのだろうか？



井の中の蛙……

5

誰もが、特別な物語を生きている

井の中の蛙、大海を知らず

→外の世界を知らない

井の中の蛙、井の中を知らず

→内なる世界への関心が低い



6



An EPIC Eclipse : Natural Hazards

誰もが、特別な物語を生きている

私たちはそもそも、
「閉じられた世界」で生きている。

閉じられた世界の生態系の
豊かさ（有限性・継続性）をよく感じて生きること。





井の中のを、よく見つめること
生き方というか「視点の転換」を。



「すべて写真になる日まで」
小野真史・野部博子 編

Copyright © IZU PHOTO MUSEUM (2014/5/9)

問題

このおばあちゃん、何をした人でしょう？



Copyright © IZU PHOTO MUSEUM (2014/5/9)

11



ピッカリ・コニカ C35EF

「誰でも手軽に撮影できるカメラ」としてし販売台数62万台のヒット製品
1968年販売

12

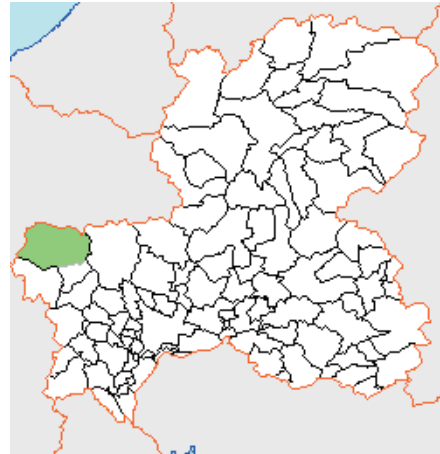
ダムに沈みゆく故郷を写真に残し続けた



岐阜県揖斐郡にあった徳山村
揖斐川上流(福井、滋賀との県境)
8つの集落
人口1500人 (1982年当時)

1977年 ダム計画本格化
1987年 廃村 (住民全村離村)
2008年 徳山ダム完成

※ダム計画は57年から
※同地域は縄文時代から存在



13

増山たづ子さんの物語

戦争で夫を亡くした後、村で農業のかたわら民宿を営みながら暮らしていたたづ子ばあちゃん。

平和に暮らしていたその村に、ある日、ダム建設の計画が持ち上がります。

皆が仲良くいつも笑って過ごしてきたその村も、補償交渉の早期決着を望む推進派と慎重派に分かれ、徐々に対立するようになってしまいます。

当初、建設に反対だったたづ子ばあちゃんでしたが

「**国が一度やろうと思ったことは、戦争もダムも必ずやる**」と考え、60歳を過ぎてからカメラを手に徳山村を記録し続けました。

湖底に沈む運命の、故郷の姿を残すために。

生涯撮影した枚数は10万カット以上。

※これらの写真は現在、岐阜県の「増山たづこの遺志を継ぐ館」に保存



14



写真「IZU PHOTO MUSEUM/すべて写真になる日まで」

増山たづ子さんの言葉

村の人々を一人残らず、このふるさとをすみからすみまで、
イラ（私）は取り憑かれたように撮ったな。

うちの父ちゃんが帰ってきたとき、
なんとしてでもこん村の状況を知らせたいしな。

それに、お父ちゃんはこん村にあまりおったことがないから、
少しでもむかしの思い出を残しておいてあげたい、
という思いもあってな。

※夫・徳治郎は太平洋戦争のインパール作戦で消息不明のまま



写真「IZU PHOTO MUSEUM/すべて写真になる日まで」

増山たづ子さんの言葉

みんな仲のいい、楽しか村がな、
ダムのためにギクシャクしてまった。
イラはな、大事なふるさとを失うだけでなく、
心までずさんでまったら、えらいこっちゃって思いはじめてな、
そのころから、
よけいに写真を大きくしてたくさんの人に配り出したな。

同盟会のもんでも、慎重派のもんでも、
みんなに不公平なく配ったな。
みんな仲良く写っとる写真を配ることでな、
少しでも心が和らげばいいと思ってな。
ま、配らなかつたより、いいんじゃないかな。
みんな、喜んでくれたよ。



写真「IZU PHOTO MUSEUM／すべて写真になる日まで」



写真「IZU PHOTO MUSEUM／すべて写真になる日まで」

増山たづ子さんの言葉

写真というのは妙なものでな、
写真を通してな、いままで気がつかなかった村の美しさ、
それから人の表情の美しさというのがわかったな。

ますます好きになってまったで、こん村が。

21



写真「IZU PHOTO MUSEUM／すべて写真になる日まで」

22



たづ子ばあちゃんは、
ふるさとの村の記憶を、
写真によって永遠の場所へと、
引っ越しをさせようとした

しかし、それは美談ではない。

徳山村の運命は、
明日の私たちの姿かもしれない。

もしくは私たちはそもそも、
永遠の記憶にしたくなるような、
「ふるさと」を生きていないかもしれない。
そのどちらも課題では？

カメラばあちゃんの眼差しは、
私たちに向けられている。

ともに生きる、
小さな社会をつくるため、
守るために、

一人ひとり、現場で生きる者が答えを
つくっていく必要がある

映画「ふるさと」

神山征二郎監督/1983年公開作品

徳山村を舞台に制作された劇映画

27



28

ふるさとの記憶を「遺す」映画

ふるさとの未来を「つくる」映画

29

市民参加型映画という活動

- ・ 映画を観るものから、つくることへの転換
- ・ 住民主導によるプロジェクト（運動）
- ・ 驚きと感動をもって、地域に学ぶ体験

→プロジェクトを通じて生み出されるものは、
1本の映画作品と、
ありたい地域社会の姿である
それが、ふるさとの未来をつくる映画

30

2本の映像作品をご覧ください

1：「映画で心に火をつけろ」
(市民参加型映画の概要と特徴、関係者インタビュー / 「ふるさとがえり」)

2：「さいたまKIDSプロジェクト さいたま市20周年事業」
(映画づくりを体験する中高生たちの姿から「映画づくり体験」そのものを)



2本の映像作品をご覧いただきました

1：「映画で心に火をつけろ」
(市民参加型映画の概要と特徴、関係者インタビュー / 「ふるさとがえり」)

2：「さいたまKIDSプロジェクト さいたま市20周年事業」
(映画づくりを体験する中高生たちの姿から)

市民参加型映画という活動

- ・映画を観るものから、つくることへの転換

超面倒臭いことが山ほどある！

- ・住民主導によるプロジェクト（運動）

- ・驚きと感動をもって、地域に学ぶ体験

→プロジェクトを通じて生み出されるものは、
1本の映画作品と、
ありたい地域社会の姿である
それが、ふるさとの未来をつくる映画

35

「ふるさがえり」のケース

- ・足掛け6年以上のプロジェクト
→人・もの・お金は全て自ら調達
- ・新恵那市発足に際して「合併騒動」
→草の根から全域での交流、つながりを
→きっかけは一人の行政職員
→延べ、2万人以上の住民が参加
- ・NPO法人の設立
→様々な地域活動を展開
- ・現在まで続く映画祭や住民ネットワーク創出
- ・全国1400回以上の自主上映回リレー
→住民同士の交流、地域への関心喚起
→消防団モチーフも話題に



36

市民参加型映画という活動がもたらすもの

新たな地域づくりの火種
ともに活動する信頼関係

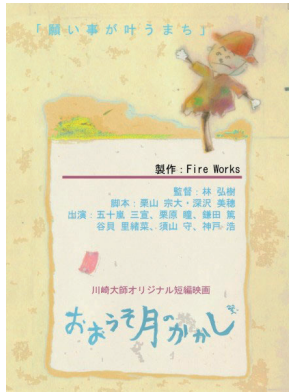
驚きと感動を自ら地域につくる、
その共創体験から生まれた
「ちいさな社会」。

／「ちいさな社会」については牧野篤先生の著書を参照されたし

市民参加型映画という活動の正体

超面倒臭いことを
地道にしっかりと
手間をかけてやる！

参加のプロセスを
どこまでも広げる工夫は必要



ものがたり法人FireWorksの作品歴

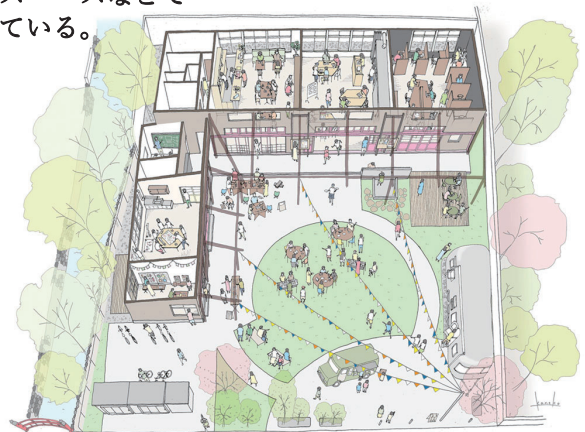
静岡県三島で制作された「惑う After The Rain」



三島の未来をつくる「みしまびと」をつくるプロジェクト

NPO法人みしまびと
みしま未来研究所の設立へ

地域の未来をつくる人が育つ場（拠点）
コワーキング、カフェ、多目的スペースなどで
様々な活動やイベントが生まれている。



神奈川県川崎市で制作された短編「おおうそつぎのかかし」

FireWorksのデビュー作「らくだ銀座」上映から、川崎大師でも短編映画制作

- ・プロジェクトメンバーはその後、新たなお祭りを企画
- 「かわさき楽大師」2日間で20万人以上の動員を誇る地域の風物詩へ成長(2005年-)
- 市民映画スタッフ一人であった小学校教師が勤務する映画で映画づくりを導入



41

神奈川県川崎市で制作された短編「おおうそつぎのかかし」

川中島小学校「映画づくり 小学5年生 総合的学習の時間」(日本初の取組み)

- クラスごとに1本の映画を原作、脚本、撮影、上映まで手掛ける
- 完成した作品は、楽大師や地域の映画館で上映
- 第1回の授業(2008年)を受けた生徒が2018年に再び結集、川崎大師で自主映画を制作



42

驚きと感動の体験から生まれた
様々な種が、
今も「ちいさな社会」をつくり
各地で息づいています。

私たちは映画を作ることそのものよりも
どのよう（な）映画をつくることと同じくらい
どのよう（に）映画をつくるのか？
そのプロセスを大切にしてきました。

結果として、そこから大きな熱量が生まれました。

後半の対話集

「ちいさな社会」をつくるために、社会教育に求められるものとは？
4名の地域づくりの実践者たちとの対談録。

- 1.小田圭介氏「社会教育に欠けている、日常性」
- 2.羽田ふみえ氏「公民館が、いつも支えてくれた」
- 3.山口 覚氏「対話から醸し出す、地域の未来」
- 4.田中典子氏「その仕事、楽しんでますか？」

45

後半の対話集 一

「何もしない合宿」
ご存じですか？

月に一度の子どもと大人のお泊まり会



46

一人暮らし高齢者と高校生が電話で交流 安否確認にも

上田学 2021年2月5日 11時00分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷
list 0

声のチカラ プロジェクト



放課後、高齢者に電話する新美秀貴さん（右）ら=2020年11月12日、静岡県裾野市の県立裾野高校、上田学撮影



コロナ禍で自宅に閉じこもりがちな一人暮らしのお年寄りに、高校生が電話や手紙で連絡して孤立を防ぐ取り組みが、静岡県内で進んでいる。高齢者の安否確認の役割に加え、スマホ世代の高校生がお年寄りと言葉を交わして社会経験を積むのにも役立っている。

「お元気ですか」。昨年11月下旬の放課後、県立裾野高校1年の新美秀貴さん（16）が、裾野市内に住む山口正巳さん（77）に電話を掛けた。卓球部の活動を報告し、週末に控えた試合を話題にすると、「全力を出せるよう頑張ってね」と励まされた。「本当の息子のように接してくれる。見守られている感じがする」と新美さんは言う。

小田圭介さんへのzoomインタビュー、ご覧ください

後半の対話集 二

「崖の上のポニョ」の
保育園・老人ホーム一体型の施設
ご存じですか？



51

後半の対話集 二

羽田ふみえ氏

「地域共生のまちづくり。

いつも公民館が、いつも支えてくれた」

- ・ 鞆の浦「さくらホーム」(2004年開設)代表
- ・ 理学療法士



理学療法士として20年間、福山市内の病院や老人保健施設、
リハビリテーション専門学校に勤務。

結婚を機に暮らし始めた鞆の浦。

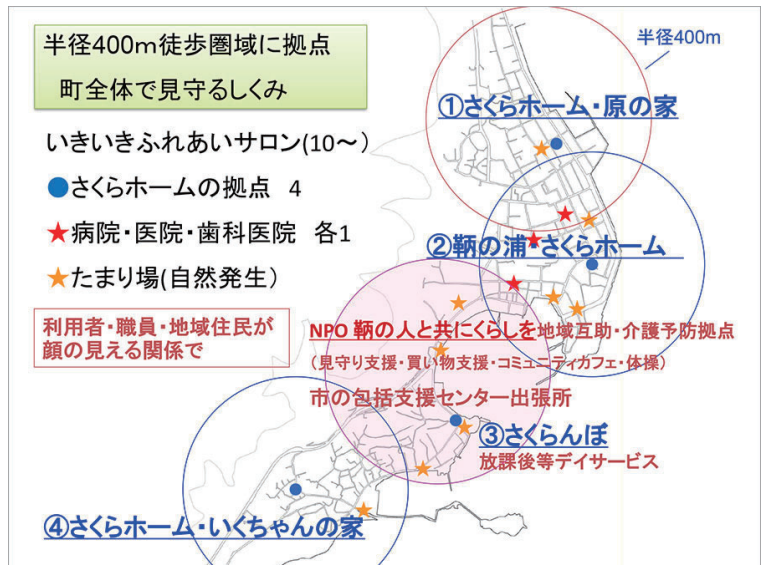
義父の介護をきっかけに地元の地域福祉活動に携わるようになる。

リハビリで治しても「地域に居場所がなくては意味がない」と40年前に独自の啓蒙活動をスタート。

2004年4月 鞆の浦・さくらホーム開所（築300年以上の古民家を改築）
広島県鞆の浦でグループホーム・デイサービス・小規模多機能居宅介護・
放課後等デイサービス・「お宿と集いの場 燧治（ひうちや）」・駄菓子
屋を運営している。

地域包括ケアシステムの政策立案時にモデルの一つとされた。

52



鞆地区 人口 2021年統計 3,672人



羽田ふみえさんへのzoomインタビュー、ご覧ください

55

後半の対話集 三



福岡県福津市福間中学校 2年生全員（230名）

56

後半の対話集 三

山口覚氏

「対話から醸し出す、地域の信頼」

- ・津屋崎ランチ代表
- ・慶應義塾大学SFC 特任教授
- ・1級建築士



北九州市出身、1969年2月13日生、
九州芸術工科大学（現九州大学芸術工学部）環境設計学科卒。

2002年鹿島建設を退職後、2009年福岡県福津市・津屋崎へ移住。
同年まちおこしプロジェクトの拠点として『津屋崎ランチ』を開設。
本物の暮らし・働き方・つながりを実現するまちおこしプロジェクトを
推進して、地域住民と移住者らで懐かしくも新しい地域社会の創生を目指す。

57

津屋崎を舞台に
古民家再生
移住支援
起業塾
対話による社会教育



58

山口覚さんへのzoomインタビュー、ご覧ください

59

後半の対話集 四

田中典子氏
「その仕事、楽しんでますか？」

・福井県社北公民館 主事

地域密着型の公民館をめざし、
地域の団体や住民と密接に関わり合いをもちながら事業を展開。

さらに世代を超えた幅広い地域のニーズを事業に取り組んでいくために、
PDCAサイクルで事業に取り組んでいる。「チャオカード作戦」は、
「いっちょお」「やっちょお」「あつめちょお」という意味を込めた独自の
ポイントカードを作り、講座への参加意欲促進につながる様々な工夫や努力
を行い、若い世代の参加を大幅に増やしている。

66回優良公民館文部科学大臣表彰 最優秀館を受賞
他、様々な賞を受賞する公民館の立役者の一人が田中典子氏



60

田中典子さんへのzoomインタビュー、ご覧ください

「ちいさな社会」をつくるために、社会教育に求められるものとは？
4名の地域づくりの実践者たちとの対談録をご覧ください。

- 1.小田圭介氏「社会教育に欠けている、日常性」
- 2.羽田ふみえ氏「公民館が、いつも支えてくれた」
- 3.山口 覚氏「対話から醸し出す、地域の未来」
- 4.田中典子氏「その仕事、楽しんでますか？」

日常に息づく信頼関係づくり

信じ頼り合える
「私たち」を絶えずつくり続ける

お金では買えない
手間暇時間をかけて
醸し出されていく

環境破壊とともに
関係破壊にも注視

現在・過去・未来をつなぐ
世代間の「信頼関係・対話・物語」

相互信頼と相互扶助にて、
偉大なる行為はなされ、
偉大なる発見がなさる。

ホメロス
(紀元前8世紀・古代ギリシャの詩人)

信頼が失われたならば、何を語っても意味がない

フランツ・カフカ
(チェコ出身の作家)

結び

長時間のご視聴、ありがとうございました！

映画作家・栗山宗大